

びっくり諏訪塾

⑯ 渡る期間は藩主の命

釜口水門から天竜川の左岸を少し下ると、平成2年岡谷市教育委員会建立の「右・西街道」と刻まれた道標が三叉路の分岐点に建つていて、西街道は花岡城裏手を抜け、小坂観音院、諏訪大社そして茅野市安国寺方面へと続く。

道標から更に下ると青く塗られた橋が見えてくる。その横に見慣れた形の大石が展示されている一角がある。これは江戸時代、天竜川を渡るために作られた「びつたら橋の橋石」である。

石の上部を凹型に加工し10個ほど川の中に並べ板を乗せ、対岸まで繋いだ簡素な橋で、増水時に板が流されぬよう橋台の石に穴を開け板の片方を縄で止めている。板の幅は一尺二寸といふから36枚ほ

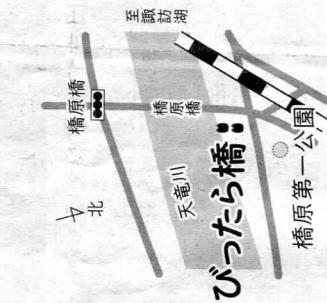
ど。万が一板がはずれ流されても板を戻せば通行可能になつたといふ慶運モノだ。

板は水面すれすれで幅が狭く板の上を歩く度に大きく揺れ「ビタビタ」と音を立てた事から「びつたら橋」と呼ぶやうになつたと伝える。びつたら橋は諏訪藩主より

減水期の冬春だけ利用が許され、増水期の夏秋は船で川を渡つたといふ。

弘化2(1845)年に初めて32間(約57.6m)の橋が掛けられたと「日記年代記」に見え、その後びつたら橋は姿を消した。また現在の釜口橋もびつたら橋であつたといふから驚く。

青い橋原橋のたもじにあるびつたら橋の遺構は対岸と日常的に往



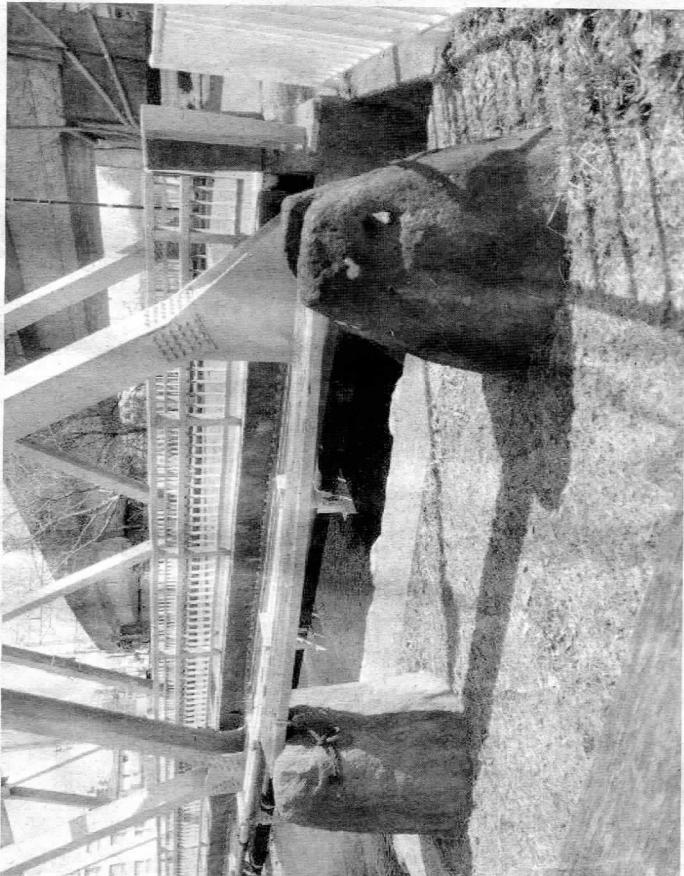
来したいと願う先人たちの生活を語る生き証人と言えるのではないか

だろうか。

随時掲載

詳しい場所などの問い合わせは諏訪町事務局(電話070-8323-2107)へ。

- ・さらり諏訪塾の冊子は
諏訪市観光案内所
(JR上諏訪駅内)
- ・れすじらん割烹いすみ屋
(諏訪市諏訪)
- ・書店「言事堂」
(諏訪市木久)
- ・すわ大昔情報センター
諏訪書店(通販のみ)
(57・09のア)5ア・09のア)
- ・柏屋カフエ&ギャラリー
(諏訪市中洲神宮寺)
で販売中です。



江戸時代、天竜川を渡るために作られた「びつたら橋の橋石」

今回の筆者



涌井みち子さん

立川流建築彫刻研究者でスボーツ・インストラクターとしても活動しています